

Artworks of Sanshiro Noguchi -Dolls and Paintings-



三四呂人形「てるてる坊主」



「自画像」(個人蔵)



「朝鮮風景画」(個人蔵)



「鳥籠を見る女性」私この頃変なのよ”
(個人蔵)



三四呂人形「ハチ公」(個人蔵)

芸術世界

野口二四郎の



三四呂人形「黒猫」(個人蔵)

2025.3.1(土) ~ 5.11(日) 三島市郷土資料館
Mishima City Local Museum

〒411-0036 静岡県三島市一番町19-3市立公園楽寿園内

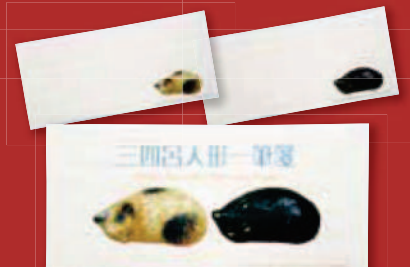
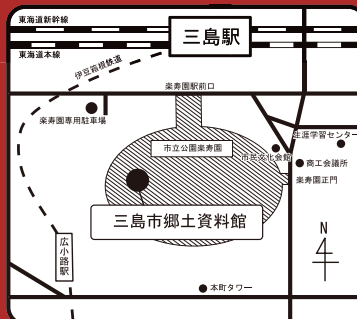
TEL 055-971-8228 FAX 055-971-6045

開館時間 9:00~17:00(3月中は16:30まで)
(ただし楽寿園の入園は閉館30分前まで)

休館日 月曜日(祝日の場合は翌平日)

入館料 無料(ただし楽寿園入園料として15歳以上
300円、学生は学生証提示にて無料)

交通案内 三島駅南口から徒歩5分、
市立公園楽寿園内



三四呂人形「黒猫」「ぶち猫」の
一筆箋が新登場!

三島出身の野口三四郎は、人形芸術運動が勃興した昭和初期に活躍した人形作家で、のちに重要無形文化財保持者(人間国宝)となる鹿兒島寿蔵や堀柳女らとともに甲戌会を結成するなど、精力的に創作活動を行っていました。将来を嘱望された人形作家でしたが、彼の創作した「三四呂人形」の芸術性が認められ、これからという時に35歳の若さで亡くなっています。

三島の風土を想起させるおだやかで牧歌的な三四郎の作風は、長く市民にも親しまれてきましたが、三島のお土産として人気だった複製三四呂人形が作られなくなって久しいこともあり、若い市民や新しく移住してきた方々にはあまり知られていません。本企画展が、幅広い方々に郷土ゆかりの芸術家・野口三四郎を知っていただき、三島の風土や文化への理解を深めていただくきっかけになれば幸いです。



野口三四郎肖像写真(個人蔵)

野口 三四郎 略歴

明治34年(1901)、三島町大中島(現三島市本町)に生まれる。葦山中学校(現県立葦山高校)では美術部に所属し、数多くの芸術家を輩出した彦坂繁三郎の指導を受ける。卒業後、写真師見習いを経て東京の三越百貨店で写真技師として働く。昭和4年(1929)、京城(現ソウル)で開催された朝鮮博覧会に三越百貨店から派遣され、博覧会終了後は約一か月間朝鮮半島各地を旅行し、朝鮮の風景や風俗を数多くスケッチする。帰国後は三越百貨店を退職し、知人の彫刻家を手伝うかたわら人形制作を始める。人形は自身の名前から「三四呂人形」と名付けた。昭和9年、鹿兒島寿蔵、堀柳女ら人形作家らと甲戌会を結成、精力的に人形制作に取り組む。昭和11年、人形芸術院主催の第一回総合人形芸術展に出品した「水辺興談」が最高賞である人形芸術院賞を受賞する。同年、結核が悪化し、三島へ戻り療養生活を送る。昭和12年、35才で病没。同年、旧友らによって三島の丸屋呉服店で「故野口三四郎遺作三四呂人形展」が開かれる。



三四呂人形「影ふみ」(個人蔵)



三四呂人形「春日庭」



三四呂人形「桃子」(個人蔵)



三四呂人形「里子」(個人蔵)



「朝鮮風俗図 男の巻」(個人蔵)



「朝鮮風俗 小供の巻」(個人蔵)



三四呂人形制作工程(個人蔵)